

市議会議員

おのざわ康弘の

活動報告

# ひげ通信



2007

No. 18

発行日 07-10 発行責任者 小島治樹 原田定明 小野澤康弘後援会 川越市小仙波町 5-15-3 川越市吉田 715-16 TEL049(232)5789 TEL049(231)4850

## 2007 秋、市議会報告（9月議会）

日を追うごとに、過ぎしやす季節になりました。特に今年の夏は気温が高く、健康面では小さなお子さんや高齢者の方々には体調管理も厳しく、働く社会人の方々にとってもたいへん厳しい季節だったと思います。TV報道でも、北極の氷がかなりの勢いで融けている状況を見て、改めて地球規模の環境悪化の早さに危機を感じます。

さて、川越市議会9月議会も九月三日より開会し、二十六日に閉会となりました。今議会中は川越市にとり、たいへん重要な課題が表面化し、川越市のまちづくりにとどまらず、近隣自治体をも巻き込むような構想が市長より発言がありました。

今回のひげ通信十八号では私の一般質問や議会中の出来事、又川越市の置かれている現状や山積する問題について私なりの目線でご報告いたします。

川越市の全体面積は109.16km<sup>2</sup>あります。分かりやすく正方形で表すと、一辺が10.5kmになります。果たして川越市民はこの広い市内全域がどのようなふうなのか、どれだけ理解しているでしょうか？今回私が取り上

げた一般質問は、このような観点から、まず、中核市であり、業務核都市の広域的な中心核としての中核施設である川越駅西口のふれあい拠点施設周辺から市庁舎のある中心市街地に向けた質問を行うことにより、川越市の中心が今どうなっているのかを改めて議会の場で、問題点や課題そして将来像について多岐にわたり質問いたしました。（詳しくは本文3P）



8月の川越市広報では、旧市内の鏡山跡地事業の説明や川越駅西口地区にかかる、埼玉県との共同事業である西部地域振興ふれあい拠点施設整備概要(案)が特集されていました。バブルの崩壊により日本経済が不安定となり、この数年間で景気は上向きの

兆しが見えてきているものの、まだ厳しいものがありますが、川越市の将来の顔となりうる大型事業が前進しているという事では、私は評価をしたいと思います。しかしながら、大型事業の推進に当たっては、現在抱えている数々の課題の整理と課題を統一的な視点から描く、デザインが必要であり、タイムスケジュールと優先順位を決めた都市計画の進行が肝要であります。特に市庁舎の移転問題を市長が議会で論ずるのであれば、点としての構想ではなく、面で捉え、大きなランドデザインの核をしっかりと決める議論をふまえ、絵を描く事が市民にとつても分かり易いと、私は思います。

### ランドデザインの必要性が表面化

私たち議員とは川越市の政策や首長の所信などを議会の一般質問という場で問い、又議員自らの提案を行い、より良い川越市の都市経営に市民と共に監視をしながら参加するものだと思います。その様な観点から、私は市長の庁舎移転発言は構想としての考えは評価いたす部分もありますが、市民や議会に対しての手續

きとしては問題を残す所もあり  
ます。今回改めて、今後しっかりと  
した整理と川越市全体のデザ  
イン構想が早急に必要である事  
が表面化したしました。

私自身、今回の一般質問では  
拠点施設のかかる都市計画、道  
路川越所沢線や西武鉄道の一部  
地下化にともなう、都市計画道  
路、中央通り線など、更には旧市  
街地における中央通り線の未整  
備区間の都市計画上の今後の計  
画ラインの扱いや、本川越駅周辺  
など大きな課題が山積であり、  
また一方では、国の策定した「首  
都圏整備計画」において川越市周  
辺地区等、既存の市街地には商  
業、文化交流機能が集積してい  
る事をいかしつつ、中心市街地の再  
整備を推進する事や圏央道と関  
連自動車道の結節地域という地  
域特性を活かし、研究開発、物  
流機能等の拠点を形成する為、  
圏央道鶴ヶ島インターチェンジ周  
辺整備の推進や今回話題の西部  
地域振興ふれあい拠点施設の整  
備など、川越市の県西部地域に  
おける拠点性など、本市の業務  
核都市としての大切な役割も忘  
れてはなりません。

**主な議決案件**

**九月定例議会の主な議案**

(九月三日〜九月二十六日)

**主な議決案件**

十八年度決算認定について十三件

条例の一部改正について 八件

請負契約について 一件

道路線の認定、廃止について 八件〔原案可決〕

補正予算 三件

十八年度継続費清算報告書 一件

請願(意見書) 一件

文教常任委員会の主な議案

川越市立川越高等学校授業料等

(旧川越商業高校)

徴収条例の一部改正について

授業料の認定について

現在の市立川越高校は、今年

の大学進学率が60%あり、市、

内外から沢山の入学希望がある

人気のある高校です。九月一日

現在では全学年847名に対して

市内生365名(43%)市外生4

82名(57%)であり

ます。又、生徒一人に

かかる年間の金額換算

は830,320円です。

一方県立の平成十六

年度の数字で見ると、

生徒一人当たりの換

算は1,031,028

円です。今回の授業料

の改定については川越

	市内生	市外生
現行	年額 111,600円	年額 168,000円
改正案	年額 115,200円	年額 174,000円
引上げ額	年額 3,600円	年額 6,000円

市は平成十二年、平成十四年と改定を行っており、県立は平成十三年、平成十六年、平成十九年の改定を行っている。各委員より質疑があったが、起立多数により可決となりました。

**厚生常任委員会の主な議案**

仮称川越市新清掃センター

仮称川越市新清掃センター

仮称川越市新清掃センター

仮称川越市新清掃センター

仮称川越市新清掃センター

仮称川越市新清掃センター

仮称川越市新清掃センター

仮称川越市新清掃センター

仮称川越市新清掃センター

仮称川越市新清掃センター

仮称川越市新清掃センター

仮称川越市新清掃センター

仮称川越市新清掃センター

仮称川越市新清掃センター

仮称川越市新清掃センター

仮称川越市新清掃センター

**私の思う今後の課題**

今回の議案はすでに契約済みである「新清掃センター建設プラント工事(熱回収施設)の隣接に建設をする施設である。議案資料入札結果では、落札した25億7600万円(税別)から45億円という額の入札があり、価格差が表面化した入札であった。今回の発注では性能発注方式を採用しており、従来の図面発注ではない為、業者の提案の差が価格差を出したと思うが、契約後の設計の為、現在のところ完成時の形態が見えにくいケ所もあり、完成時に提案されたものと性能チェックを行う事となる。

今後の課題としては、建設工事全般、価格と性能等が総合的に評価され、公開された場で分かりやすく比較検討される事が望まれます。そのような意味からすると、川越市も規模に応じた総合評価方式の一般競争入札も検討すべきと思います。

**おのざわ康弘 プロフィール**

昭和二十九年三月十三日

川越市小仙波町生れ

川越市立第一小学校

埼玉県立川越工業高校

東洋大学大学院工学研究科

(建築学専攻) 修士

現職 川越市議会議員 2期

文教常任委員会 副委員長

川越市議会図書室委員会 委員長

介護保険事業計画推進委員



(仮)川越西公園建設委員

行政の情報は市民の共有財産である

私の議会質問

今回の私の一般質問は「川越駅西口にかかわる諸問題と西部地域振興ふれあい拠点施設整備について」と「中心市街地におけるまちづくりの課題について」です。本文1ページでも少しふれましたが、西口地区の大型事業により川越市が大きく変化しようとしております。又、その一方で旧市街、北部市街地のまちづくりはつとめて川越駅西口周辺の整備を意識して進められて来たといっても過言ではありません。特に急激な速さで推進している拠点施設などは、県との関係もあり、市街地にとって今後重要な課題を作って行くものと思えました。その様な点から私は、大型事業の推進状況に合わせた現在の西口の計画と従来からの計画との間の問題点の指摘の必要性を感じたのでその確認と、当該事業によって生じる周辺の計画の見直し等の問題や北部市街地との関係を含め、更に将来の

西口地区の構想などのデザインの見直しにより新たなデザインを描き、市民に分かりやすい核を決め、本当の意味での川越市全体のグランドデザインを市民に示すべきであると考えたため、市庁舎問題を仮説として取り上げ、今回の一般質問に立ちました。

ふれあい拠点施設（骨子）

- ① 事業の推進状況
- ② 土地の取得状況
- ③ 県との共同事業と市の役割
- ④ 過去の産業文化施設構想からの経緯
- ⑤ 県との協定について
- ⑥ 市民活動支援センターの具体的な内容
- ⑦ ホールの具体的内容、計画による市民や周辺自治体の意見
- ⑧ 現在の市民会館はどうするのか
- ⑨ 県の施設の概要
- ⑩ 民間施設
- ⑪ 都市計画法上の取り扱い
- ⑫ PFIについて
- ⑬ PFIのメリット、デメリット
- ⑭ 入札の方法
- ⑮ 駐車場の確保問題
- ⑯ 今後のスケジュール
- ⑰ **川越駅西口の諸問題（骨子）**
- ⑱ 川越駅西口土地区画整備事業（第二工区）をどの様に考えるか
- ⑲ 拠点施設から国道16号までの川越所沢線の整備状況
- ⑳ 川越駅西口土地区画整備事業

（第三工区）をどの様に進めるか  
川越駅西口から本川越、中央通り線（第四工区）はどのように進めるか。

川越駅西口の市有地の現状と今後の本格的活用と暫定利用について市はどのように考えるか。

ふれあい拠点施設完成と歩行者等の増加が見込まれる川越駅西口地下道と川越駅前広場の改修計画について

西武新宿線の地下化計画と経緯  
川越駅西口周辺地区の今後のグランドデザイン策定の必要性があるが、市の考えは。

西口付近への市役所移転について  
**中心市街地のまちづくり諸課題**  
中央通り線、本川越から連雀町の整備について

歴史的地区環境整備街路事業について  
交通の円滑化について  
中央通り線、本川越から連雀町間の東側整備について

中央通り線、連雀町交差点から仲町までの都市計画道路変更について  
喜多院周辺の歴路構想と整備に向けて

松江町交差点の改良について  
建築基準法の一部改正にともなう町並の整備の影響

建築条例の必要性について

市長答弁

○グランドデザインの策定について  
西口基本構想を平成6年に作ったが、今十三年経過している。社会情勢も変わってきている、全体的なまちづくりに影響するので西口のみならず、今後見直しが必要であります。

○西口付近への市役所移転について  
西口庁舎移転には沢山の問題がある。

- ・ 今の市役所は限界であり、新しくつくり直さなければならない。
- ・ 拠点施設に入れたいと思ったが県の反対でまず、ダメであろう。
- ・ 市役所の移転には市議会の賛成が必要である。
- ・ 慎重に考えなければならぬ。
- ・ 今日の時点では、私には具体的な事はいえない。

私の一言

市長は私の市庁舎移転問題の質問の回答では慎重で、具体的な答弁は避けましたが、数日後の庁舎の耐震問題にかかる質問では、はっきりと西口移転を答弁されました。今回私が質問した内容は耐震問題からではなく、大きな構想の中での庁舎移転問題であり、北部市街地の事や1号線の問題など、まずはグランドデザインありきで考えるべきである事を庁舎移転問題を含め、質問いたしました。市長からの答弁どおり西口への市庁舎移転を積極的に推進するのであれば、様々な角度から意

見を聞き、市民に分かりやすい構想とし、本当の意味で川越市の大きな構想を実現していく良いチャンスであると、私は考えます。

### 川越市政の ここに注目!

今回は一般質問と合わせ、中心市街地関係の現状を取り上げてみます。

#### 中心市街地の現状

川越市全体の人口、世帯数については、人口が4.4%、世帯数は2.1%増加し、中心市街地の人口、世帯数については人口9.3%世帯数27.3%が増加しており、市全体の増加率より中心市街地の増加率が上回っている(表1)。一方で、中心市街地の世帯数は5地区では減少はしていないものの、人口については川越市駅周辺地区、歴史的町並み地区については年々減少が見られる。また、年少人口については、市全体では9.6%減少であり、中心市街地では3.4%の減少という事で市全体に比べ中心市街地の減少率が少ない。又、高齢者人口については、91.7%と大幅に増加しているものの、中心市街地では35.9%増加であり、市全体の増加率に比べると大幅な増加ではない(表2)。

この主な要因では中心市街地の中に建築されるマンションの影響があると思われ、購入層から見ると子育て

世代の増加によるものと推測される(表3)。

【人口・世帯数の推移】(表1)

(単位:世帯、人、%)

区分	7年度		12年度		17年度		19年度		趨勢比 対7年度
	数値	伸率	数値	伸率	数値	伸率	数値	伸率	
世帯数	川越駅西口周辺地区	2,857	8.2%	2,980	4.3%	3,696	24.0%	3,824	33.8%
	川越市駅周辺地区	1,257	3.8%	1,337	6.4%	1,388	3.8%	1,396	11.1%
	川越駅・本川越駅東地区	2,091	7.2%	2,342	12.0%	2,618	11.8%	2,875	37.5%
	中央通り周辺地区	1,497	24.1%	1,701	13.6%	2,046	20.3%	2,076	38.7%
	歴史的町並み地区	1,684	-0.5%	1,696	0.7%	1,766	4.1%	1,780	5.7%
中心市街地計	9,386	7.9%	10,056	7.1%	11,514	14.5%	11,951	27.3%	
川越市合計	107,082	13.2%	117,049	9.3%	126,514	8.1%	130,023	21.4%	
人口	川越駅西口周辺地区	6,745	1.4%	6,681	-0.9%	7,979	19.4%	8,071	19.7%
	川越市駅周辺地区	3,365	-4.6%	3,207	-4.7%	3,119	-2.7%	3,036	-9.8%
	川越駅・本川越駅東地区	4,880	-3.3%	5,054	3.6%	5,368	6.2%	5,823	19.3%
	中央通り周辺地区	3,887	11.2%	4,149	6.7%	4,523	9.0%	4,520	16.3%
	歴史的町並み地区	4,835	-6.9%	4,661	-3.6%	4,531	-2.8%	4,476	-7.4%
	中心市街地計	23,712	-0.8%	23,752	0.2%	25,520	7.4%	25,926	9.3%
	川越市合計	315,136	5.9%	324,063	2.8%	328,415	1.3%	328,917	4.4%

注)人口・世帯数とも住民基本台帳によるもの(各年1月1日現在)

【人口に占める年少人口と老年人口】(表2)

区分		全体人口		年少人口 15歳未満		老年人口 65歳以上	
		市全体	中心市街地	市全体	中心市街地	市全体	中心市街地
7年度	人口	315,136	23,712	49,411	3,074	30,576	3,798
	構成比	100.0%	7.5%	15.7%	1.0%	9.7%	1.2%
19年度	人口	328,917	25,926	44,678	2,969	58,610	5,160
	構成比	100.0%	7.9%	13.6%	0.9%	17.8%	1.6%
	伸率 趨勢比 対7年度	0.2% 4.4%	1.6% 9.3%	-1.3% -9.6%	2.6% -3.4%	12.2% 91.7%	5.0% 35.9%

注)各年度1月1日現在の住民基本台帳人口

【中心市街地のマンション建設状況】(表3)

区分	H6まで	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19
棟数	18	2	2	6	3	5	0	5	3	4	5	6	0	9
戸数	1,356	97	103	244	180	330	0	284	185	270	398	283	0	-
累計戸数	1,356	1,453	1,556	1,800	1,980	2,310	2,310	2,594	2,779	3,049	3,447	3,730	3,730	-

### 喜多院周辺の歴<sup>れき</sup>みち事業 整備構想について

歴みちとは歴史的環境整備街路事業が正式名称であり、通称「歴みち」として使用しております。

私は以前より喜多院周辺の歴みち事業に対しての実現性を提唱してまいりました。川越市では一番街周辺をすでに整備計画として実施しており、残り3路線620mが事業認可を受けております。中心市街地の東側にあたる、観光拠点である喜多院周辺では構想路線として位置づけられており、喜多院門前通り線約150m、喜多院外堀線約400mと2路線について今回議会での答弁でもありましたが、この事により更に私の質問の中では、喜多院周辺の都市景観重要建築物の指定に伴い、市の構想以外にも今後の計画の中に盛り込めないか確認したところ市としては観光基盤として、整備の必要性は高いとの答弁であり、整備に向け沿道及び周辺の住民の方々と路線範囲を含め町並景観の保全についても合意形成が重要と考えつつ、都市計画決定、事業認可、整備手続きの流れの説明を受けました。私は今後この地区の整備については、地元の方々の考え方を尊重し喜多院周辺が更に情緒豊かな「まち」になる事を願い、構想から計画段階へと推移していく事に力を注ぎたいと考えています。

### 次回の議会

十二月定例議会にも是非傍聴にお越し下さい。市政に関するご相談や、ご意見がありましたらお気軽に、ご連絡下さい。

TEL2322-1578  
TEL2331-4850  
FAX2333-9310  
onozawa@abox3.so-net.ne.jp